

# 稲作情報

Vol.4 平成27年6月15日

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部

問い合わせ先：本吉農業改良普及センター

TEL：0226-29-6044

HP：<http://www.pref.miyagi.jp/my-nokai/>



生育は順調、平年より1週間程度進んでいます。

気象経過 6月に入ってから気温はほぼ平年並。9日に多雨。

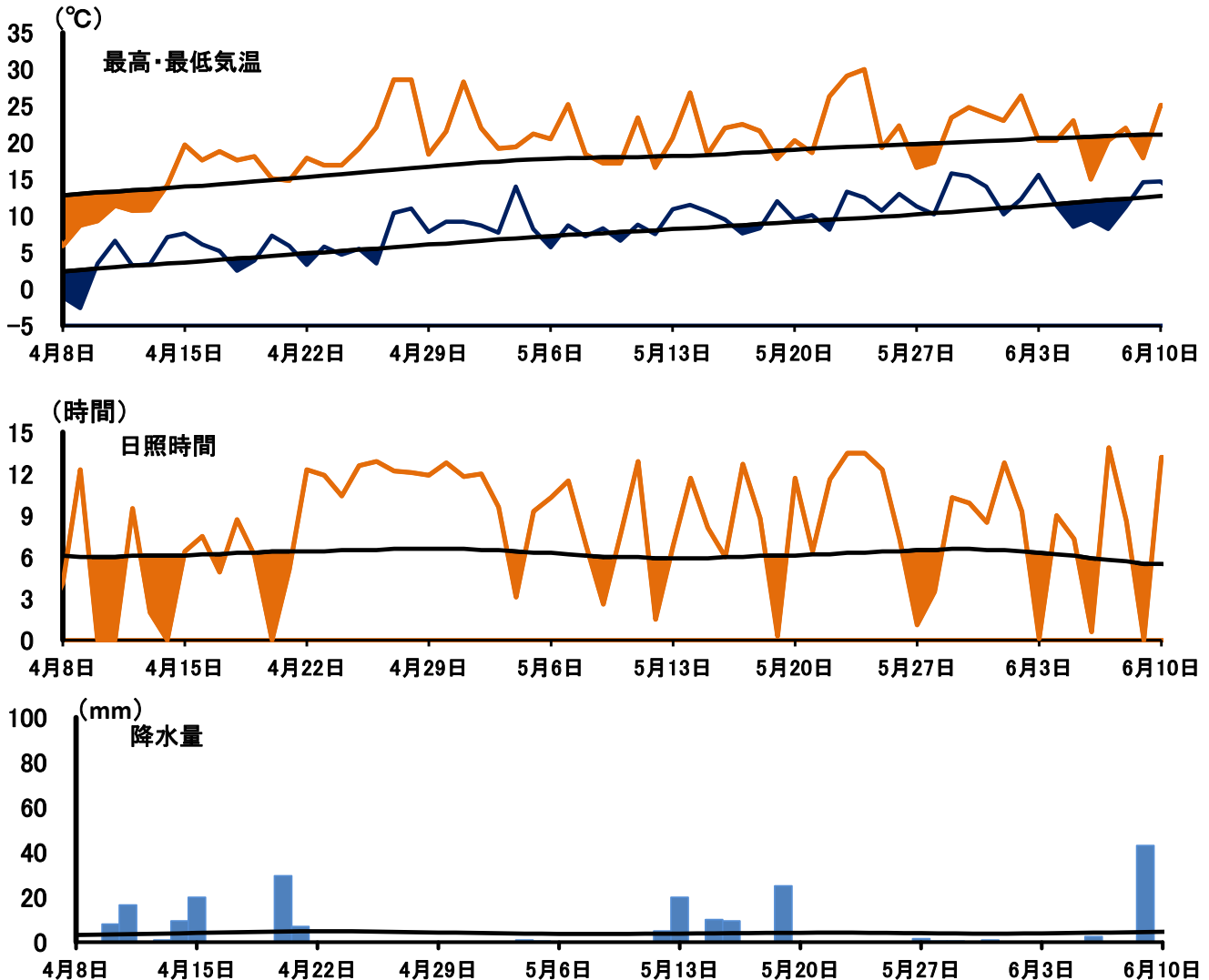


図1 気象経過図(気仙沼アメダス：4/8~6/10)

5月は高温・多照・少雨でしたが、6月に入ってから気温はほぼ平年並、日照時間は多め、降水量は9日にまとまった雨がありました。

表1 半旬別気象表(気仙沼アメダス)

	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			日照時間(hr)			降水量(mm)		
	H27	平年	差	H27	平年	差	H27	平年	差	H27	平年	比	H27	平年	比
5月3半旬	15.5	12.9	2.6	21.2	18.2	3.0	9.9	8.2	1.7	41.0	29.6	139%	35.0	19.2	182%
5月4半旬	15.1	13.5	1.6	20.8	18.7	2.1	9.4	8.9	0.5	39.5	30.3	130%	34.5	20.3	170%
5月5半旬	18.2	14.2	4.0	24.7	19.4	5.3	10.9	9.6	1.3	57.3	31.4	182%	0.0	20.8	0%
5月6半旬	17.0	14.9	2.1	21.4	20.0	1.4	13.3	10.5	2.8	40.6	39.1	104%	3.5	23.4	15%
6月1半旬	17.4	15.7	1.8	22.6	20.5	2.1	11.6	11.4	0.2	38.5	31.5	122%	0.0	19.7	0%
6月2半旬	16.0	16.3	-0.3	20.1	21.0	-0.9	11.6	12.3	-0.7	36.3	28.4	128%	45.5	22.0	207%

## 生育経過 生育は概ね順調。平年より1週間程度進んでいます。

### 1) 生育調査ほ

両生育ほとも、草丈はやや長め、葉数は1枚多く、平年より1週間程度生育は進んでいます。

気仙沼市の生育調査ほ（ひとめぼれ）では、今年は栽植密度が例年より少なくなっているため、茎数はやや少なく（平年比90%）なっていますが、前回よりも100本/㎡前後増えており、生育は順調です。

南三陸町の生育調査ほ（ササニシキ）では、茎数は多く（平年比127%）、葉色は濃く（平年比115%）となっています。

管内の生育も概ね順調で、平年より1週間程度進んでいます。

表2 生育調査結果

調査地点名 品種名 (田植日)		6月1日調査			6月10日調査			
		草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (枚)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)
生育調査ほ	平成27年	21.7	115	5.8	24.4	205	7.1	34.7
	前年	19.2	147	4.7	21.5	220	6.4	39.2
気仙沼市本吉 ひとめぼれ (5月14日)	平年	18.3	119	4.4	22.5	227	6.0	36.1
	前年比(差)	2.5	78%	1.1	113%	93%	0.7	89
	平年比(差)	3.4	96%	1.4	108%	90%	1.1	96
生育調査ほ	平成27年	25.0	135	5.5	27.2	253	7.0	37.5
	前年	20.8	90.7	4.4	28.7	191	5.7	34.5
南三陸町入谷 ササニシキ (5月14日)	平年	18.4	101	4.4	26.2	199	5.9	32.5
	前年比(差)	4.2	149%	1.1	95%	133%	1.3	109
	平年比(差)	6.6	134%	1.1	104%	127%	1.1	115

注: 平年値は過去5カ年(平成22~26年)の平均値

### 2) 復旧農地

普及センターでは、管内の復旧農地の水稻も調査を行っています。

除塩ほは復旧後作付け3年目、土壌改良プログラム実証ほは2年目です。

「土壌改良プログラム」とは？

客土した復旧農地で、地力不足を緩効性肥料と追肥で補い、たい肥で土づくりを行うことにより、収量を確保しながら5カ年で通常の地力に戻すプログラム。

表3 復旧農地の生育調査結果

調査地点名 (田植日)	区名		6月1日調査			6月10日調査			
			草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (枚)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)
除塩ほ 気仙沼市階上 (5月16日)		平成27年	16.3	73	5.1	21.1	81	6	26.3
		前年	16.2	83	4.0	21.1	107	5.6	39.4
		前年比(差)	0.1	89%	1.1	100%	76%	0.4	67
土壌改良プログラム実証ほ	実証区 (たい肥3t)	平成27年	-	-	-	22.2	135	5.7	26.8
		前年	-	-	-	20.3	78	4.8	-
		前年比(差)	-	-	-	109%	173%	0.9	-
南三陸町歌津 (5月23日)	対照区 (たい肥0.6t)	平成27年	-	-	-	23.3	148	5.5	24.4
		前年	-	-	-	21.4	87	4.8	-
		前年比(差)	-	-	-	109%	172%	0.7	-

※土壌改良プログラム実証ほの基肥は、両区とも「てまいらず」34kg/10a。

※品種はすべて「ひとめぼれ」。

除塩ほは、栽植密度が11.1株/㎡(33株/坪)と低く、除草剤散布後深水状態だったことから、茎数はあまり増加しておらず葉色も薄めです。

土壌改良プログラム実証ほは、昨年は田植えが6月2日と遅く茎数が少なかったのですが、今年は5月23日田植えだったので、葉色は薄めですが茎数は順調に増加しています。実証区と対照区の差は、現在のところあまりありません。

管内では、今年いくつかのほ場整備地区で水稲作付けが再開されました。全ての工区で、土壌改良プログラムに基づいて土壌改良資材、基肥を散布しています。鉄コーティング直播に挑戦した工区もありますが、移植ともども順調に生育しています。

### 3) 鉄コーティング直播

直播展示ほは、は種後好天に恵まれたためは種後5日で出芽し、出芽揃いは5月18日(は種後7日)でした。その後も生育は順調に進んでおり、草丈と茎数はほぼ昨年並、葉数は昨年よりも1.5枚進んでいます。

表4 直播展示ほの生育調査結果

調査地点名 (は種日)		6月10日調査		
		草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)
直播展示ほ 気仙沼市本吉町 (5月11日)	平成27年	11.0	108	4.1
	前年	10.9	112	2.6
	前年比(差)	101%	97%	1.5

※鉄コーティング直播栽培3年目。品種は「ひとめぼれ」。

## 今後の技術対策

### ◎水管理

- 分げつの発生の少ないほ場では、浅水(2~3cm)管理として水温の上昇に努め、分げつの発生を促進させましょう。
- 低温や強風が予想される場合は、5~6cmの深水にしましょう。
- 水温の上昇に伴い土壌中の有機物の分解が進み、土壌からガスが発生する場合があります。ガスの発生が多いと根からの養分吸収を阻害するため、一時的に落水したり間断かん水を行い、土壌中に酸素を供給しましょう。

### ◎雑草防除

- 雑草が残っている場合は、中・後期剤を散布し防除しましょう。散布の際は、農薬ラベルに記載された使用時期および使用方法に注意し、遅れないように散布してください。
- 除草剤の種類によっては、雑草に全く効果がみられない場合があります。雑草の種類や草丈葉齢を確認し、適切な薬剤を選びましょう。

(例) ノビエが残ってしまった場合、除草剤の選択を誤ると・・・

バサグラン液剤 バサグラン粒剤	→ ×	ノビエには全く効きません (広葉雑草は枯れます)
クリンチャーEW クリンチャー1キロ粒剤 クリンチャージャンボ	→ ○	ノビエは枯れます (広葉雑草には全く効きません)

「雑草の種類がわからない、どの除草剤を散布すれば良いのかわからない」といった場合には、散布する前に普及センターまでご相談ください。

### ◎病害虫防除

#### 《葉いもち》

病害虫防除所の発生予察情報(6月5日発表)によると、葉いもちの発生時期は昨年並(7月1半旬)で、発生量も昨年並と予察されています。

(イ) 残苗がまだ残っているほ場がみられます。残苗は、本田でのいもち病の発生源になるので速やかに処分してください。

- (ロ) 箱施用剤による予防防除を行っていない場合は、各種水面施用剤をそれぞれの防除適期に散布してください。(田植時期が遅い場合でも防除適期に散布してください)。
- (ハ) 箱施用剤による予防防除を行った場合でも、発病がみられたときには茎葉散布剤で速やかに防除してください。
- (ニ) 葉いもちは、穂いもちの伝染源となります。病勢が進展してからの防除では十分な効果が期待できないので、水田をこまめに見回り、早期発見・早期防除に努めてください。

◆**防除上の注意**◆

- 粒剤は、水深を3cm以上にして散布し、各々の薬剤の湛水期間を必ず守ってください。
- パック剤は、水深を3～5cm程度にして均等に投げ込んでください。藻類や浮草の発生が多い場合は、薬剤の拡散が阻害されるので、粒剤等で対応してください。
- 茎葉散布剤を使用する場合は、耐性菌の出現や増加を避けるため、同一系統薬剤の連続使用や多数回散布は行わないでください。
- 薬剤を散布する際は、周辺へ飛散しないよう注意して下さい。



「葉いもち防除は、予防防除と発病の早期発見が大事です」

《**イネドロオイムシ**》

イネドロオイムシの発生時期（幼虫加害最盛期）はやや早く（6月5半旬）、発生量は平年並と予察されています。

- (イ) 6月の気温が低温で経過すると成虫の産卵期間が長引き、幼虫の加害期間も長くなります。今後の気象経過に注意し、発生が長引く場合は追加防除を実施してください。

◆**防除上の注意**◆

- カーバメート系薬剤や有機リン系薬剤に抵抗性を示す個体群が確認されているため、効果が十分でない場合は別系統の薬剤を使用してください。
- 「蚕注意マーク」等の表示がある薬剤は、事前に周辺の養蚕の状況等に注意を払い、残効性等の特性を考慮してから使用（時期）を決めてください。

《**斑点米カメムシ類**》

- (イ) 畦畔や農道、雑草地、休耕田等のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類の重要な増殖源となります。計画的に草刈りを行い、カメムシ類の増殖を抑えてください。

**農薬危害防止運動実施中！**

宮城県では、6月1日～7月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。

農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。